



安全衛生

～労働災害撲滅に向けての取り組み～

「安全は全てに優先する」の理念のもと、社員が安心して働くことのできる、総合的な安全衛生活動に取り組んでいます。



Sumitomo Electric Wiring Systems, Inc. (SEWS) [米国]

コーポレート安全・環境・リスク・マネージャー

ジョン ポイナー

安全は人生の如く

私は北米SEWS社における各拠点の安全管理、および災害防止活動を担当しています。入社以来22年間、製造現場の社員として、また管理職としても、安全管理システムの改善を続けてきました。

当社では「安全は全てに優先する」という理念のもと、多角的なアプローチを採用していますが、その目標は非常にシンプル。「全従業員が出社時と同じ状態で帰宅すること」なのです。

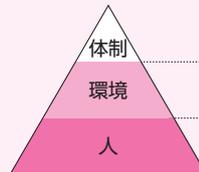
私が信念としている「安全とは生き方そのものである」という考え方。“生き方”であるからには、安全に対する意識や行動は、職場でも家庭でも同じであるべきです。会社が個人の行動特性を分析し、安全意識や傾向を認識できるよう推進したり、家族や友人と安全知識の共有を推奨しているのは、「安全とは生き方である」という考え方を従業員自身に知ってもらいたいからにほかなりません。常に最高レベルの安全を達成しようと挑戦し続ける会社の一員であることを、私はとても光栄に思っています。

理念と方針

住友電装グループは、「安全は全てに優先する」を事業の基本に、人間尊重の精神のもと、一切の労働災害を許さない厳しい姿勢で、働く人の安全と健康の確保に向けて行動します。全社安全活動方針を下記のように定め、ゼロ災害をめざして取り組んでいきます。

》全社安全活動方針

17V：危険「ゼロ」化確立 → 災害「ゼロ」達成
安全環境、安全行動でゼロ災害を実現させる。



安全管理体制

標準化と監査(遵守)の仕組みづくり

安全環境

5Sと建屋・設備・作業の安全環境づくり

不安全行動防止(教育・訓練)

安全知識と安全意識の向上

》グローバルな啓発活動の展開

当社における災害の要因は、運搬作業、保全作業、清掃といった付帯作業や歩行時の転倒などに起因するものが多くを占めています。特に近年増加傾向である歩行中の転倒災害への対策として、グループ全社員を対象とした「STOPアクシデントキャンペーン」を実施しました(実施期間：2014年9月～2015年6月、2016年2月～2016年9月)。

このキャンペーンは、正しい歩き方を周知し、「STOP」スローガンを掲げて安全啓発活動を進め、転倒災害の撲滅をめざすものです。個々の安全意識の向上が、災害撲滅に向けて重要であるとの認識のもと、ポスターの掲示(各国語に翻訳)、安全唱和や社内放送、TVモニターによる表示・啓発、安全教育の実施など幅広く施策を展開しています。これらに加えて、2016年度は保全作業の遵守事項などを掲載した「保全作業安全ハンドブック」を制作、約2,000名の社員に配布し、安全意識の醸成を図りました。

》[STOP]スローガン

- S** Do not take a short cut and watch your step
・近道せず足元に注意する
- T** Do not text or talk on the phone while walking
・歩行中は電話やテキスト(メール)をしない
- O** Hold on to the handrails when using stairs
・階段使用時は手すりを持つ
- P** Do not put your hands in your pocket while walking
・歩行中は手をポケットに入れない



保全作業安全ハンドブック

》グローバル労働災害統計

2005年から集計しているグローバル労働災害統計は、各国で異なる判断基準を統一し、傷害レベルの尺度を定めて比較検討し、分析しています。2016年度は国内8件、海外3件と減少しました。安全衛生管理の強化に向けて、発生事象ごとに要因分析を行い、設備のプログラムを変更するなど、再発防止に努めています。今後も一層の対策に取り組んでいきます。

》フォークリフトの安全対策強化

当社現場ではフォークリフトによる運搬作業が多く、重大災害につながる可能性が高いことから、2014年度より災害の撲滅に向けて安全対策の強化に精力的に取り組んできました。フォークリフト災害防止のための安全グローバル標準の制定、リフトと作業者の作業場所を分ける(空間的分離)、リフトと作業者の稼働時間を分け同時作業させない(時間分離)、歩行者接近検知装置や警告ライトの導入など抜本的見直しを進めています。この結果、フォークリフト作業に起因する事故は、2015年度、2016年度と発生しておらず、対策の効果が表れています。対策については、2016年度中に完了しました。

》設備認証

2012年に生産設備に対する安全認証の仕組みを導入し、設備のリスクアセスメントとオペレート環境での安全確認の実施を義務づけています。以前から現存する設備や現地調達設備の多くは、同安全基準の運用前に導入されているため、2016年度から2017年度にかけて、対象となる生産設備15,418台が現在の安全基準に則しているか、確認作業を進めています。2016年度は、重大災害に結びつく可能性のある刃物を有する設備と回転部や圧着機構を有する設備を重点設備として優先的に確認作業を行い、安全確認が完了した設備には、「認証ステッカー」を貼り付けています。2016年度末の安全認証進捗率は81%で、2017年度末までに全設備認証の完了をめざしています。

》健康への取組

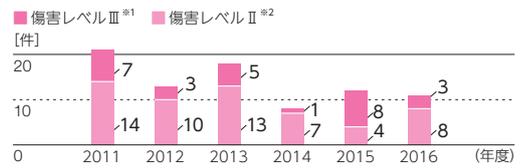
住友電装グループは、社員一人ひとりの健康は元気ある企業の源であるとの考えのもと、「住友電装グループ 健康への取組」を宣言しました。積極的な健康づくりの推進に向け、3つの重点取組に沿った取り組みを展開しています。その一つとして、これまでのスワンスワンデーを、2017年4月より受動喫煙防止の日とあらため、禁煙啓発活動を展開しています。国内の各拠点ではポスター掲示などを行い、心身両面にわたる健康保持増進のためのサポートをし、「健康経営」*の観点からも効果的な労働の寄に向けて行動していきます。

*「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です

●ウォーキングイベント開催

住友電装の鈴鹿地区において、メタボリックシンドローム予防やロコモティブシンドローム予防の観点から、社員に自分のペースで無理なく楽しく運動習慣を身につけてもらう目的で、2013年度よりウォーキングイベントを実施しています。2014年度からは、コミュニケーション向上も視野に入れ、3人一組の駅伝形式やワンデーイベントも取り入れています。今後は、このイベントを全社展開させて社員の心身の健康増進をサポートし、活気溢れる企業グループをめざしていきます。

》グローバル労働災害件数の推移



*1 休業災害相当(機能的部分的・一時的低下を伴い、継続的治療行為を必要とするもの)

*2 不休業災害相当(一時的な治療行為を必要とするもの)



リフト作業場と作業者の分離

》健康への取組 3つの重点取組

- ① 国内衛生体制の整備と健康風土づくり
労働環境整備を図り、心身両面の疾病を未然予防する。
- ② メンタルヘルス対策
セルフケア(心の状態の把握とストレスコントロール)とラインケア(管理監督者によるストレス要因の改善)の積極的な推進活動を図る。
- ③ フィジカルヘルス対策
生活習慣病・高齢化予防対策と受動喫煙防止対策の推進を図る。



ウォーキングイベントをきっかけに運動に目覚める

住友電装(SWS)
電子事業本部
パワーユニット事業部

(左)李丹
(右)里見 恵利佳

ウォーキングイベントでは、チーム内でもチーム外でも万歩計以外の事も話そうことが増えていき、自然に仲良くなれた気がします。ワンデーウォーキングイベントでは、友達や部署の方々とウォークラリーをしながらたくさん歩き、とても楽しくあっという間に時間が過ぎました。また、歩いた後のお弁当は格別で、美味しくてたまりませんでした。さらに、抽選会でお菓子博のチケットが当たったこともすごく嬉しかったです。運動をほとんどしなかった私が、このイベントをきっかけに運動を始め、10キロのマラソン大会などにも参加するようになりました。来年も、機会があれば駅伝などのウォーキングイベントに参加したいと思っています。



ウォーキングイベントの様子